

レイクサイドだより

第57号

(令和3年10月)

発行所

介護老人保健施設 レイクサイド木場

石川県小松市三谷町そ80番地

TEL 0761(23)1800

FAX 0761(23)7280



長引く新型コロナ感染症の流行にて、感染予防の観点から面会や外出等の制限、さらには施設行事等もなかなか難しい状況が続いており、ご不便とご迷惑をおかけしております。そうした中でも少しでも皆様に楽しくお過ごしいただけるようにと思っております。

2階、3階でおやつバイキングが
行われた時の様子です！！

おいしいものはどれだけ
でも食べられます



おやつと一緒にジュースも
いただきました



皆様、とても喜ばれていました😊



通所リハビリ



通所リハビリでは、手指のリハビリも兼ねて、季節に応じた様々な創作活動にも取り組んでいます。作品は展示もしています。



通所リハビリテーションの居宅訪問について



居宅訪問

理学療法士や作業療法士といった
リハビリ専門職が
通所リハビリをご利用される利用
者様の**ご自宅を訪問し**、利用
者様の心身状態やご自宅での生活
の様子などを確認、評価します。

- 福祉用具の提案
- 介助方法の助言
- 生活上の助言
- 自宅での運動の提案

などを行います



ご自宅での生活環境やご様子等の情報、評価を基に、目標を立てて
通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションのリハビリに反映して、
より効果的なリハビリテーションをご提供します。

通所リハビリテーション

訪問リハビリテーション



介護相談隊の活動報告

コロナフレイルをご存じですか？

介護が必要な状態の一歩手前を「フレイル（frail）」《脆弱な、虚弱な》と呼びられます。コロナ禍において、不要不急の外出自粛が呼びかけられる中、自宅に閉じこもりがちになっている方も多く、体を動かす機会が減り、食事が偏ったり、人との会話や交流機会も減ったり、身体や認知機能に影響が出ており、コロナの影響で「フレイル」になる、いわば「コロナフレイル」の増加が懸念されています。

当施設では、『**介護相談隊**』として、地域での様々な健康に関する取り組みに、感染予防に配慮しながら職員を派遣する等の活動を行っております。フレイル予防の一環として、何かご協力できることがありましたら、一度、当施設までお気軽にお電話、ご相談ください。



8/5（木）に介護相談隊を派遣した時の様子です。

職員紹介

- ①氏名
- ②部署
- ③趣味
- ④抱負



①高田 久浩
(たかだ ひさひろ)
②通所リハビリ部（介護職員）
③ジョギング、釣り等のアウトドア
④第2の人生の新たなる挑戦として介護職にチャレンジします。利用者様の笑顔が見られる様、日々、鍛錬・スキルアップを目指します。



①宮下 京子
(みやした きょうこ)
②機能訓練部（理学療法士）
③音楽
④今までの経験を活かし、利用者様とより良いリハビリができるように頑張ります。よろしくお願ひいたします。





介護UPプロジェクト「介護マイスター」制度

田谷会では介護力評価における独自の基準・方法を設け、『4つの介護力（観察力・判断力・業務遂行力・多職種連携力）』において高い水準を有し、専門性を高め、利用者様の能力を引き出すことを『with Ability』とし、それを実践できる介護職員を『介護マイスター』に認定しております。この度、第2期の新たな介護マイスターが認定されましたのでご紹介します。レイクサイド木場では4名が介護マイスターとして認定されました。



田谷会の新しい介護マイスターです

介護マイスターとして、日々、他の職員の模範となることはもちろん、行動規範の作成や実践プログラムの作成、研究課題への取り組みも行っております。

介護マイスター 通所リハビリ部 竹田 祥子

利用者様と自分らしく関わり、寄り添える介護を心がけていきたいと思います。

介護マイスター 一般棟部 忠澤 早苗

第2期田谷会介護マイスターとして、職員の手本となるような行動・言動を自覚し、『With ability』に沿った介護を行い、介護力向上に努めます。

介護マイスター 認知症専門棟部 濱崎 拳志郎

介護マイスターとしての自覚を持ち、行動規範や研究課題について、努力し、自信を持って行動を行います。

介護マイスター 認知症専門棟部 嵐 勝平

介護マイスターとして自覚を持ち、業務に励みます。頑張りますのでよろしくお願ひいたします。



利用者様や家族様、関係各所の皆様、地域の皆様には、日頃より、新型コロナウイルス感染症対策へのご理解とご協力を頂き、誠にありがとうございます。

入所者様及び職員のワクチン接種も終えましたが、全国的な感染状況は予断を許さない日が続いております。今後、冬を迎えると、より感染リスクが高くなる時期となります。手洗いや消毒、密の回避、マスクの着用等の基本的な感染対策を行い、コロナ禍での2回目となる冬を皆様と一緒に乗り越えていければと思っております。

